

NKSJ

HOLDINGS

株主の皆さまへ

第3期 株主通信

2013年3月期 (2012年4月1日～2013年3月31日)

contents

- 1 … NEWS FLASH
- 3 … トップメッセージ
- 5 … NKSJグループ経営計画
- 7 … 連結財務ハイライト
(NKSJホールディングス)
- 8 … 財務ハイライト
(損保ジャパン、日本興亜損保、NKSJひまわり生命)
- 11 … NKSJグループのCSR
- 13 … 会社概要／役員／株式の状況／
ホームページのご案内
- 14 … 株主メモ

NKSJホールディングス株式会社

証券コード：8630



NEWS FLASH

2012年10月以降のNKSJグループの主な取組みをご紹介します。



2012年
10月

NKSJグローバルユニバーシティ新設

損保ジャパンおよび日本興亜損保は、世界で伍していく経営人材を育成するため、シンガポール国立大学ビジネススクール (National University of Singapore Business School) と提携し、企業内大学「NKSJグローバルユニバーシティ」を新設しました。

会社が選抜した職員約20人を対象に、NUSビジネススクール提携による質の高い「集合研修」と、「海外での責任ある業務経験」を通じ、経営人材の育成を行います。



2012年
10月

フランス保険引受会社 マルタン・アンド・ブラール社の株式取得

日本興亜損保は、フランス所在の保険引受会社マルタン・アンド・ブラール社 (Martin & Boulart SAS: 以下「M&B社」) の全株式を取得しました。

これにより、欧州の保険引受態勢を強化するとともに、M&B社が取り扱う現地優良企業物件の引受けを通じて収益拡大を図っていきます。

2013年
1月

「太平洋自然災害リスク保険パイロット・プログラム」への参加

損保ジャパンは、大規模なサイクロンや津波によって甚大な被害を受ける可能性がある太平洋島嶼国の自然災害リスクの軽減を目的として、世界銀行が設立する「太平洋自然災害リスク保険パイロット・プログラム」に参加しました。

太平洋島嶼国のうちの5か国が世界銀行とデリバティブ契約を締結し、世界銀行は世界銀行信託基金を通じて、一定規模以上の自然災害が発生した場合に、加入国に対して補償金を支払います。

2013年
3月

スマートフォン向け無料アプリ「Safetyマイル」の提供開始

損保ジャパンおよび日本興亜損保は、安全運転や防災、また、日常生活におけるトラブル予防につながるお客さまの取組みを支援するスマートフォン向け新アプリ「Safetyマイル (セーフティマイル)」を共同で開発し、無料で提供しています。

アプリにより、簡単に楽しみながら安全運転、防災、トラブル予防への関心を高めたいいただくことができます。さらに貯まったマイルはプレゼントキャンペーンへの応募に利用できます。



2013年
4月

「帰宅困難者対策保険」の発売

損保ジャパンは、東京都帰宅困難者対策条例の制定を受け、自治体向けに「帰宅困難者対策保険」を発売しました。

「帰宅困難者対策保険」は、大規模な災害が発生して、民間事業者が一時滞在施設を開設する際に、自治体が民間事業者に見舞金を負担することをサポートする保険です。

このほか、民間事業者向けには自ら施設を開設する際の経済負担に備えるための「地震デリバティブ」を提供します。

2012年
11月

「HDI問合せ窓口格付け調査結果」で最高ランクの「三ツ星」獲得

NKSJグループでは、お客さまへの質の高いサービスの提供を目指しています。

HDI-Japanが主催する「HDI問合せ窓口格付け調査結果」において、損保ジャパンは、「サポートポータル(オフィシャル・ホームページ)部門」で三ツ星を、日本興亜損保は、「問合せ窓口(コールセンター)部門」で三ツ星を、それぞれ獲得しました。

2013年
4月

損保ジャパン・日本興亜損保の一体化運営(実質合併)スタート

NKSJホールディングス、損保ジャパンおよび日本興亜損保の3社は、損保ジャパンと日本興亜損保の合併日を2014年9月1日に決定しました。

この合併に先立ち、シナジーの早期発揮、経営効率の一層の改善を図るため、2013年4月1日から、両社は役職員の相互兼務等による一体化運営(「実質合併」体制)をスタートさせました。



〈合併新会社のシンボルマークの意味〉

シンボルマークの愛称は、「The Global Ring」です。絶対的な安定と調和を感じさせる赤の正円は、日本の象徴。明日の方向を指し示し牽引するプラチナの環は、損保ジャパン日本興亜が未来に向かって世界中の人々と取り結んでいく「新しい信頼」の象徴です。この正円と環をダイナミックに組み合わせることで、日本を代表するブランドとして「世界で伍していく会社」を目指すという私たちのビジョンを表現しました。



早期の一体化運営で統合効果を創出 ～損保ジャパン・日本興亜損保～

NKSJホールディングス株式会社
取締役社長 櫻田 謙悟

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここにNKSJホールディングス株式会社「第3期 株主通信」をお届けいたします。

さて、昨年度のわが国経済は、個人消費が総じて底堅く推移し、公共投資も東日本大震災からの復興需要等により堅調に推移いたしました。年度後半からは、日本銀行の政策が材料視されたことによって株式相場が上昇し、景気は全体として持ち直しに向かっております。

こうした環境下、新しい経営体制で臨んだ昨年度の取組みを振り返りますと、経営計画の達成に向けた戦略の遂行により、収益力および財務力に着実な進捗が見られ、確かな手応えを感じているところであります。結果として2012年度の連結業績は、国内損害保険事業および国内生命保険事業ともに順調に推移し、経常利益が1,047億円、当期純利益が436億円となりました。

中核となる国内損害保険事業におきましては、2014年9月に予定されております損保ジャパンと日本興亜損保の合併に向けて、着実に準備を進めております。一例として、両社役職員の相互兼務、拠点の同居等、早期の一体化運営を合併前年度の2013年4月からスタートさせました。

この早期一体化により、シナジーの早期発揮、経営効率

の一層の改善を実現することができると考えております。合併によって誕生する「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」は収入保険料が国内最大の損害保険会社となり、NKSJグループ全体を牽引するエンジンの役割を果たします。

国内生命保険事業におきましては、持続的なEV（エンベディッド・バリュー）増加に向けた商品戦略・販売戦略等により規模の拡大を図ってまいります。海外保険事業におきましては、リテール分野・企業分野ごとに戦略を明確にしたうえで収益化を推進し、また金融サービス事業におきましては、保険事業と親和性のあるサービス事業への成長投資を優先して取り組んでまいります。

なお、株主の皆さまへの利益還元につきましては、2012年度の年間配当金を一株当たり60円とさせていただくことに加えて、自社株式を取得することにより、総還元額を維持する方針です。また、より適時に利益還元を行うため、2013年度から中間配当（一株当たり30円）を実施する予定です。

今後も、株主の皆さまのご期待に応えるために、グループ一丸となって諸課題に取り組み、真のサービス産業への進化を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年6月

【グループ経営理念】

NKSJグループは、お客さまの視点ですべての価値判断を行い、保険を基盤としてさらに幅広い事業活動を通じ、お客さまの安心・安全に資する最高品質のサービスをご提供し、社会に貢献します。

【グループ行動指針】

- お客さまに最高品質のサービスをご提供するために
1. 一人ひとりがグループの代表であるとの自覚のもと、お客さまの声に真摯に耳を傾け、行動することに努めます。
 2. 自ら考え、学び、常に高い目標に向かってチャレンジします。
 3. 「スピード」と「シンプルでわかりやすく」を重視します。
 4. 誠実さと高い倫理観をもって行動します。

【目指す企業グループ像】

真のサービス産業として「お客さま評価日本一/No.1」を実現し、世界で伍していくグループを目指します。

NKSJグループスローガン First

NKSJグループスローガンを“First”と決めました。
社員一人ひとりがグループの代表であるとの自覚のもと、スピードとチャレンジを大切に、
真っ先に一步を踏み出す姿勢を表現したものです。
今後、経営理念等の実現に向け、グループ一丸となって取り組んでいきます。

NKSJグループの経営数値目標である「修正連結利益1,800～2,100億円（修正連結ROE7%以上）」に向けて取り組んでいます。

グループ経営数値目標（修正利益ベース）

2015年度（計画）	
修正連結利益	1,800 ～ 2,100億円
国内損害保険事業	700 ～ 800億円
国内生命保険事業	1,000 ～ 1,100億円
海外保険事業	140 ～ 200億円
金融サービス事業等	20 ～ 30億円
修正連結ROE	7%以上

（注1）消費税増税による影響については反映しておりません。

（注2）損保ジャパンと日本興亜損保の合併一時コストを、特殊要因として国内損害保険事業の修正利益の計算過程から除外しています。

修正利益の計算方法は以下のとおりです。

事業区分	修正利益計算上の事業の定義	修正利益の計算方法
国内損害保険事業	損保ジャパン、日本興亜損保（2015年度は損保ジャパン日本興亜）、セゾン自動車火災、そんぼ24の単体の合算	当期純利益 + 異常危険準備金繰入額（税引後） + 価格変動準備金繰入額（税引後） - 有価証券の売却損益・評価損（税引後） - 特殊要因
国内生命保険事業	NKSJひまわり生命	当期EV（エンベディッド・バリュー）増加額 - 増資等資本取引 - 金利等変動影響額
海外保険事業	海外保険子会社	財務会計上の当期純利益
金融サービス事業等	損保ジャパンDIY生命、金融サービス事業、ヘルスケア事業など	財務会計上の当期純利益

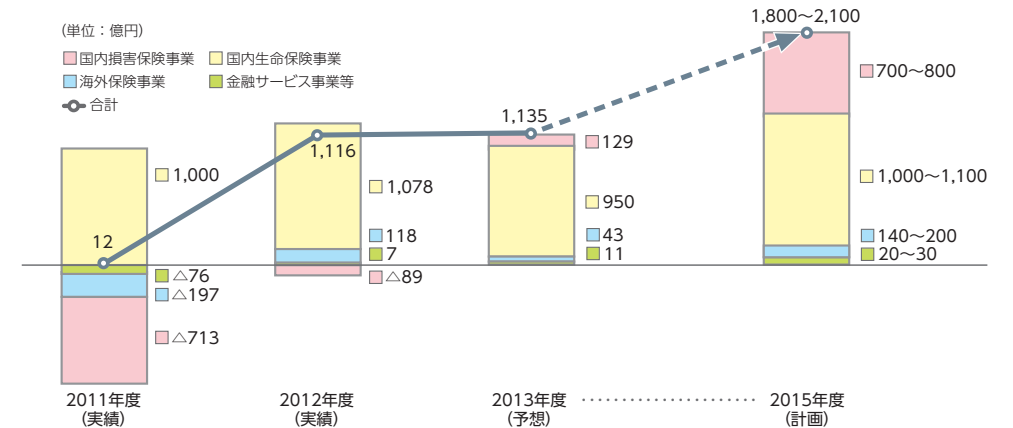
修正連結ROEの計算方法は以下のとおりです。

修正連結利益 ÷ [連結純資産（除く生保子会社純資産） + 異常危険準備金（税引後） + 価格変動準備金（税引後） + 生保子会社EV]

※ 分母は、期首・期末の平均残高

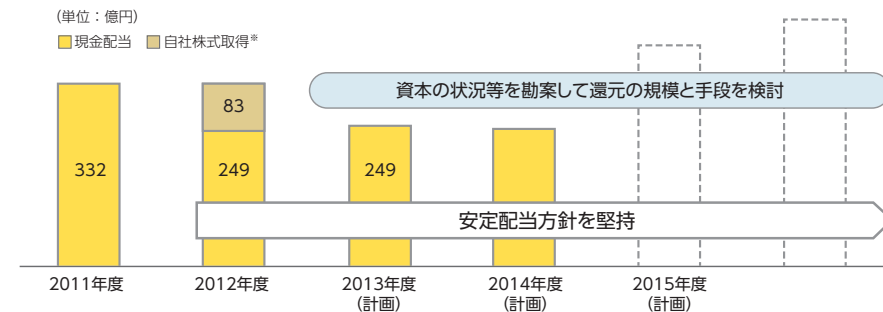
経営計画の進捗状況

- 2012年度は、国内損害保険事業が水面下ながら急回復し、修正連結利益が1,116億円となりました。
- 2013年度においても、国内損害保険事業が回復を続けると見込んでおり、2015年度グループ経営数値目標達成に向けて着実に取り組んでいきます。



株主還元

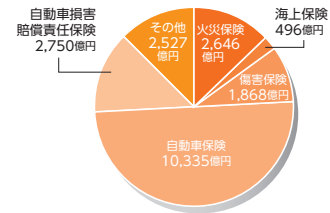
- 安定配当方針を堅持しつつ、経営環境、資本の状況および当社株価水準等に即し、自社株式取得を含む機動的な株主還元を目指します。総還元性向の中期的な目標水準は、「修正連結利益（国内生命保険事業を除く）の50%」を基本とします。
- また、2013年度より中間配当を実施する予定です。



※株主還元を目的とした自社株式取得を行う場合、実行時期を翌事業年度とする予定であり、2012年度の83億円は、2013年度に実行する予定です。

	2012年3月期	2013年3月期
経常収益	27,905	28,432
保険引受収益	26,282	26,057
正味収入保険料	19,737	20,626
生命保険料	2,501	2,647
資産運用収益	1,510	2,237
その他経常収益	112	137
経常費用	28,423	27,384
保険引受費用	23,407	22,415
正味支払保険金	14,726	13,362
資産運用費用	725	582
営業費及び一般管理費	4,182	4,262
その他経常費用	108	123
経常利益 (△は損失)	△ 518	1,047
当期純利益 (△は損失)	△ 922	436
総資産	88,933	91,781
純資産	10,005	12,834

正味収入保険料の種目別内訳 (2013年3月期)



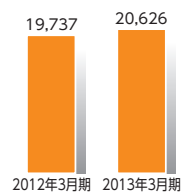
正味収入保険料

主力の自動車保険をはじめとして、すべての保険種目が増収となったことから、正味収入保険料は、前期に比べて888億円増加 (+4.5%) して2兆626億円となりました。

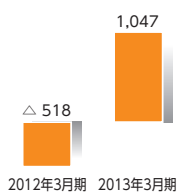
経常利益・当期純利益

資産運用収益が増加したことを主因として、経常利益と当期純利益はいずれも黒字に転換し、それぞれ1,047億円の経常利益、436億円の当期純利益となりました。

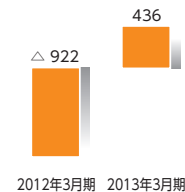
正味収入保険料 (単位: 億円)



経常利益 (単位: 億円)

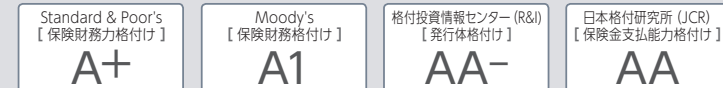


当期純利益 (単位: 億円)

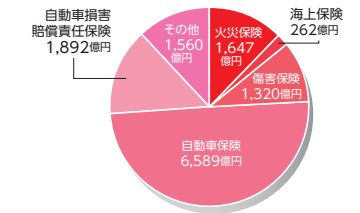


	2012年3月期	2013年3月期
正味収入保険料	12,811	13,273
(除く自賠責)	11,030	11,380
正味損害率	80.6%	70.6%
(除く金融保証・自賠責)	77.4%	67.2%
正味事業費率	33.0%	32.8%
(除く自賠責)	34.7%	34.4%
コンバインドレシオ	113.6%	103.4%
(除く金融保証・自賠責)	112.1%	101.6%
保険引受利益 (△は損失)	△ 249	△ 257
資産運用粗利益	306	1,020
経常利益	39	650
当期純利益 (△は損失)	△ 375	291
総資産	46,005	47,450
純資産	5,786	7,048
単体ソルベンシー・マージン比率 (2013年3月31日)		645.6%

格付け (2013年3月31日現在)



正味収入保険料の種目別内訳 (2013年3月期)



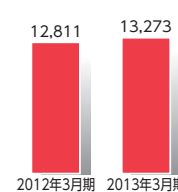
正味収入保険料

新車販売台数の増加などにより自動車保険が増収となったことなどから、正味収入保険料は、前期に比べて462億円増加 (+3.6%) して1兆3,273億円となりました。

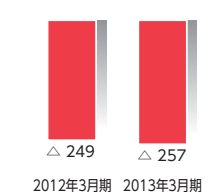
経常利益・当期純利益

資産運用粗利益が大幅に増加したことを主因として、経常利益は、前期に比べて610億円増加して650億円、当期純利益は、前期に比べて666億円増加して291億円となりました。

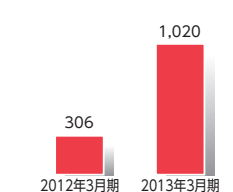
正味収入保険料 (単位: 億円)



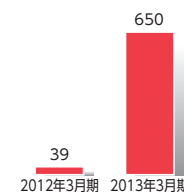
保険引受利益 (単位: 億円)



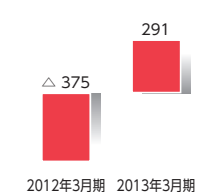
資産運用粗利益 (単位: 億円)



経常利益 (単位: 億円)



当期純利益 (単位: 億円)



日本興亜損保 (単体)

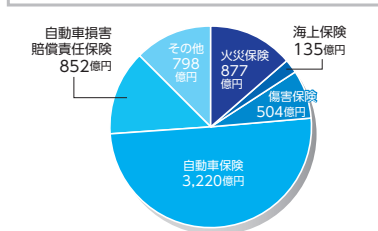
	2012年3月期	2013年3月期
正味収入保険料	6,306	6,388
(除く自賠責)	5,510	5,536
正味損害率	84.7%	74.8%
(除く自賠責)	82.8%	72.2%
正味事業費率	35.0%	34.8%
(除く自賠責)	36.9%	37.0%
コンバインドレシオ	119.7%	109.7%
(除く自賠責)	119.7%	109.2%
保険引受利益 (△は損失)	△ 411	87
資産運用粗利益	310	578
経常利益 (△は損失)	△ 77	645
当期純利益 (△は損失)	△ 225	333
総資産	23,376	22,931
純資産	3,295	4,401
単体ソルベンシー・マージン比率 (2013年3月31日)		534.0%

格付け (2013年3月31日現在)

Standard & Poor's
【保険財務力格付け】 **A+**

格付投資情報センター (R&I)
【発行体格付け】 **AA-**

正味収入保険料の種目別内訳 (2013年3月期)

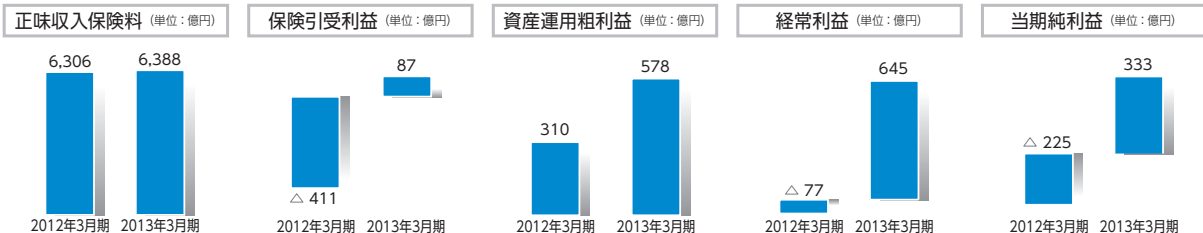


正味収入保険料

自動車保険やその他新種保険が増収となったことなどから、正味収入保険料は、前期に比べて82億円増加(+1.3%)して6,388億円となりました。

経常利益・当期純利益

保険引受利益および資産運用粗利益がともに増加したことを主因として、経常利益は、前期に比べて723億円増加して645億円、当期純利益は、前期に比べて559億円増加して333億円となりました。



NKSJひまわり生命 (単体)

	2012年3月期	2013年3月期
保有契約高	176,597	191,647
新契約高	29,683	30,433
保有契約年換算保険料	2,862	3,005
新契約年換算保険料	367	385
保険料等収入	3,601	3,707
保険金等支払金	1,728	1,722
基礎利益	58	121
経常利益	42	114
当期純利益 (△は損失)	△ 111	44
総資産	18,092	19,726
純資産	757	949
単体ソルベンシー・マージン比率 (2013年3月31日)		1,555.3%
エンベディッド・バリュー (EV) (2013年3月31日)		6,748

格付け (2013年3月31日現在)

Standard & Poor's
【保険財務力格付け】 **A+**

格付投資情報センター (R&I)
【保険金支払能力格付け】 **AA-**

※2012年3月期は旧日本興亜生命上期実績とNKSJひまわり生命の年度末実績の単純合算値です。
※保有契約高・新契約高・年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計です。

保険料等収入

医療保険や収入保障保険などの保有契約が順調に増加したことなどから、保険料等収入は、前期に比べて105億円増加(+2.9%)して3,707億円となりました。

経常利益・当期純利益

保険料等収入が増加したことを主因として、経常利益は前期に比べて71億円増加して114億円となりました。さらに、前期にあった合併関連費用の負担がなくなったことから、当期純利益は前期に比べて155億円増加して44億円となりました。

用語解説

ソルベンシー・マージン比率とは?

保険会社の健全性を見るうえで重要な指標のひとつで、予測できない大災害が発生した場合に、保険金を支払う能力があるかどうかを判断する数値です。一般的に200%以上なら保険金支払能力は問題ないとされています。

エンベディッド・バリュー (EV) とは?

生命保険会社の価値・業績を評価する指標のひとつ。「企業の純資産価値」と「保有契約からもたらされる将来利益の現在価値」を合計したもので、生命保険会社の損益計算書等の会計情報を補完する指標となるものです。欧州やカナダなどでよく用いられています。当社でも、エンベディッド・バリューを経営管理上重要な「社内評価指標」と位置づけています。

NKSJグループの考えるCSR (CSR基本方針)

NKSJグループは、未来に向けた対話を通じてステークホルダーと積極的にかかわりあいながら、経営基本方針を踏まえ、高い倫理観のもと、国際的な行動規範を尊重し、気候変動や生物多様性などの環境問題、人権やダイバーシティ、地域社会への配慮などを自らの事業活動に組み込みながら、企業としての社会的責任を果たしていきます。NKSJグループは、120年に及ぶ歴史のなかで培ってきた、損害保険事業を核とする本業の強みを活かし、これからも常に一歩先を見据えて、お客さまに「安心、安全」を提供することで、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、新しい社会的価値の創造に挑み続けます。

ステークホルダー・エンゲージメント※を重視したCSRの推進

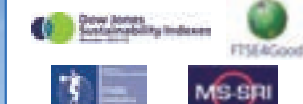
NKSJグループは、多種多様なステークホルダーとのコミュニケーションについて社会的責任の課題を認識し、信頼関係と協働関係を構築し、より大きな成果を生み出すための重要な活動と捉えています。2012年には、ステークホルダーからのご意見をふまえ、新たにCSR「5つの重点課題」を策定しました。

CSR「5つの重点課題」				
「安心・安全」の提供	気候変動をはじめとする地球環境問題への対応	金融機能を活かした社会的課題の解決	NPOなどとの協働を通じた持続可能な社会づくりへの貢献	人材育成とダイバーシティ推進による強い組織づくり

※ステークホルダーと未来に向けた対話を積み重ね、互いに協働すること。

国内外のSRIインデックス (社会的責任投資指数) などの組み入れ

NKSJホールディングスは、以下のSRIインデックスやSRIファンドの組入候補銘柄となっています。(2013年4月1日現在)



CSRトピックス



SAVE JAPAN プロジェクト
福島県猪苗代町「雪の里山」動物探して 大冒険!!

損保ジャパン

生物多様性保全活動「SAVE JAPAN プロジェクト」の取組み

損保ジャパンは、2011年度からお客さまの自動車保険のWeb約款のご利用に応じて環境NPOなどに寄付を行い、その寄付金をもとに、全国で市民参加型の生物多様性保全活動「SAVE JAPAN プロジェクト」を実施しています。2012年度からは活動地域を47都道府県に拡大し、2年間で延べ1万人以上の地域の皆さまにご参加いただきました。この活動を通して、北海道のタンチョウをはじめとする約80種もの希少生物種の保全に貢献することができました。また、多くのお客さまにWeb約款をご選択いただくことで、約740tの紙使用量の削減にも繋がっています。



被災地の子どもたちによるミュージカル「東北子ども未来公演」(撮影:高野 丈)

日本興亜損保

被災地の方々とともに～東日本大震災 復興に向けた活動

日本興亜損保は、お客さまのEco-Net約款などのご利用に応じた義援金の寄付先であるNPOと連携し、東日本大震災の被災地の人材や技術、自然、地場産品などの地域資源を活用しながら、社会的事業を起こす起業家を対象とした助成金制度を創設しました。79件の応募から「社会性」「事業性」「地域への波及効果」を考慮して、被災地の復興を目指す11名を支援対象者として採択し助成を行っています。

また、助成金制度とは別に、NGOと連携し東北復興支援プロジェクト「未来を育む学びin東北」を実施し、東北の復興に向けて奮闘する若者たちのリーダーシップ能力を育む講座「復興を担う若手リーダー育成」や被災地の子どもたちによるミュージカル「東北子ども未来公演」を開催しました。



NKSJボランティアデー
「認知症サポーターになろう!!」養成講座



「第4回 Make a CHANGE Dayアワード」奨励賞
表彰状とトロフィー

NKSJグループ

グループ全体で取り組む社会貢献活動「NKSJボランティアデー」の開催

NKSJグループは、2011年に引き続き、2012年10月の1か月間「NKSJボランティアデー」を開催。東日本大震災支援をはじめ、国際協力、自然・環境活動、福祉など各地で50の活動を実施し、約1万人のグループ社員が参加しました。この取組みが評価され、2年連続で「Make a CHANGE Dayアワード」奨励賞を受賞しました。



国立がん研究センター著作物
「患者必携 がんになったら手にとるガイド」
(紹介リーフレット)

NKSJひまわり生命

療養生活の質 (QOL) 向上を実現するサービスの提供

NKSJひまわり生命では、独立行政法人国立がん研究センターと協定を結び、がん患者やそのご家族に対して、がん医療情報の普及推進などを行っています。がんに関する知識を深めていただくための活動を通じて、保険商品を通じた経済的サポートだけでなく、がん患者のQOLの向上に貢献しています。2013年1月には、名古屋市の主催する「予防医療を趣旨とした健康づくり講演会」会場においてブースを出展し、乳がん触診モデルなどを展示するとともに、訪れた皆さまにリーフレットをお配りするなどして、がんに関する情報の普及に努めました。



第9回エコプロダクツ大賞
表彰式の様子

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

エコファンド『ぶなの森』が「第9回エコプロダクツ大賞・優秀賞」受賞

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント (SNAM) が運用するエコファンド『損保ジャパン・グリーン・オープン (愛称: ぶなの森)』が第9回エコプロダクツ大賞において「エコサービス部門・エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞 (優秀賞)」を受賞しました。

今回受賞した『ぶなの森』以外にも、『損保ジャパンSRIオープン (愛称: 未来のちから)』『損保ジャパン・エコ・オープン (配当利回り重視型)』『SNAMサステナブル投資ファンド (適格機関投資家専用)』『SJAMグリーン・ファンド (適格機関投資家専用)』など、さまざまなSRIファンドの提供を通じて、資産運用会社として持続可能な社会の実現に貢献していきます。

■ 会社概要 (2013年3月31日現在)

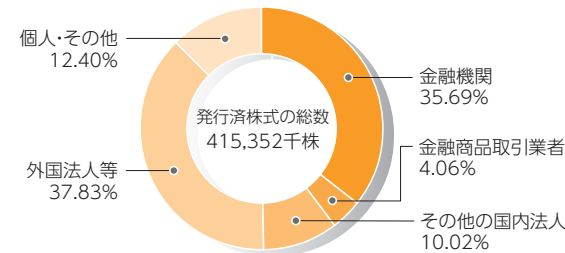
会社名 …… NKSJホールディングス株式会社
 (英文表記:NKSJ Holdings, Inc.)
 本店所在地 …… 東京都新宿区西新宿一丁目26番1号
 設立日 …… 2010年4月1日
 資本金 …… 1,000億円
 従業員数 …… 35,481名(連結)
 事業内容 …… 損害保険会社、生命保険会社その他の
 保険業法の規定により子会社等とし
 た会社の経営管理およびこれに附帯す
 る業務

■ 役員 (2013年6月24日現在)

代表取締役会長兼執行役員	二宮 雅也
代表取締役社長兼執行役員	櫻田 謙悟
取締役専務執行役員	辻 伸治
取締役常務執行役員	高田 俊之
取締役執行役員	山口 雄一
取締役執行役員	西澤 敬二
取締役執行役員	江原 茂
取締役執行役員	竹本 尚一朗
取締役	熊野御堂 厚
取締役(社外取締役)	川端 和治
取締役(社外取締役)	ジョージ・オルコット
取締役(社外取締役)	野原 佐和子
執行役員	徳岡 宏行
常勤監査役	湯目 和史
常勤監査役	吉満 英一
監査役(社外監査役)	西川 元啓
監査役(社外監査役)	椿 慎美
監査役(社外監査役)	笠 間 治 雄

■ 株式の状況 (2013年3月31日現在)

発行可能株式総数 …… 1,200,000,000 株
 発行済株式の総数 …… 415,352,294 株
 株主数 …… 51,412 名
 所有者別株式分布状況



■ ホームページのご案内

ホームページを通じて、個人投資家の皆さまにNKSJホールディングスをより良くご理解いただくための情報をお届けしています。



<http://www.nksj-hd.com/>

事業年度 …… 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 期末配当および議決権の基準日 …… 3月31日 (中間配当を実施する場合の基準日は9月30日)
 単元株式数 …… 100株
 公告の方法 …… 電子公告により行います。(http://www.nksj-hd.com/)
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。
 上場証券取引所 …… 東京証券取引所(市場第一部) および大阪証券取引所(市場第一部)
 ※東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場の統合に伴い、2013年7月16日から、東京証券取引所(市場第一部)のみとなる予定です。
 株主名簿管理人 …… 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 郵便物送付先および各種お問い合わせ先 …… 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話:0120-232-711 (通話料無料)
 特別口座の口座管理機関 …… みずほ信託銀行株式会社および三菱UFJ信託銀行株式会社

■ 株式に関する各種手続き

- 受取がお済みでない配当金のお受け取り、支払明細等の発行についてのお問い合わせは、株主名簿管理人へご連絡ください。なお、配当金のお支払期間は支払開始から3年間となっておりますので、お早目にご請求ください。
- 住所変更、配当金受領方法の指定および単元未満株式の買取・買増などの各種お手続きについては、証券会社等に口座をお持ちの株主さまはお取引のある証券会社等へお問い合わせください。なお、証券会社等に口座がなく、特別口座で管理されている株主さまは、裏表紙「特別口座の口座管理機関」までお問い合わせください。

■ 特別口座からの振替手続き

特別口座に記録されている株式は「単元未満株式の買取・買増」を除いて売買ができませんので、お早目に証券会社に株主さまご本人名義の口座を開設していただき、当該口座へ振替手続きを実施していただきますようお願いいたします。詳細につきましては、裏表紙「特別口座の口座管理機関」までお問い合わせください。

■ 単元未満株式の買取・買増制度のご案内

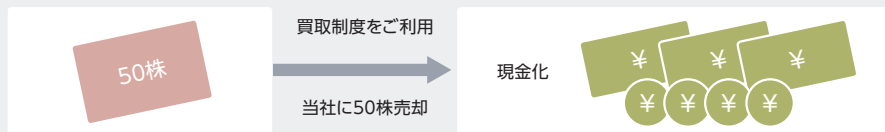
単元未満株式については、買取制度または買増制度をご利用いただくことができます。

● 単元未満株式の買取制度を利用

単元未満株式を当社に対して市場価格で売却する制度です。

具体例

50株をお持ちの株主さま



● 単元未満株式の買増制度を利用

単元未満株式を当社から市場価格で買い増して、単元株式とする制度です。

具体例

50株をお持ちの株主さま



■ 特別口座の口座管理機関

	[旧 損保ジャパンの株主さま]	[旧 日本興亜損保の株主さま]
特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先 および お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-288-324 (通話料無料)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711 (通話料無料)

NKSJホールディングス株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿一丁目26番1号
TEL. 03-3349-3000 (代表)



この株主通信は環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。